

府中市立図書館サービス状況調査票

令和7年度実施事業の評価（評価実施時期：令和8年度上半期）

基本方針		提供するサービス	事業内容	指標	(参考) 令和6年度実施事業の評価				D 予定の実施を実施できなかった		令和7年度実施事業の評価		今後の方向性	委員の意見等
					実績	評価	今後の方向性	委員の意見等	実績	評価	今後の方向性	委員の意見等		
1 市民の生涯学習を支える図書館	(1) 貸出し・閲覧サービス	A 幅広い分野の資料をバランスよく揃え、魅力ある書架を構成し、貸出し・閲覧サービスを行います。 イ 利用者の求める資料を探しやすいように配架し、読書を楽しむ十分な閲覧スペースを設けます。 ウ 未返却資料がある利用者には、貸出しの制限を行い、利用の公平性を保ちます。 エ 市内に活動拠点を置く団体やグループが、より多くの資料を活用できるように団体貸出を行います。	・所蔵資料数（図書、雑誌、視聴覚資料、マイクロフィルム） ・貸出数（図書（雑誌含む）、視聴覚資料） ・電子書籍サービス（タイトル数、ログイン数、閲覧貸出数）	・所蔵資料数 図書1,582,419冊 雑誌1,363タイトル 視聴覚資料67,152点 マイクロフィルム4,000点 ・貸出数 図書・雑誌1,544,933冊 視聴覚資料120,227点 ・電子書籍 タイトル数13,176点 ログイン数28,508回 閲覧貸出数38,708点	B 魅力ある書架を構成するために不用品となった資料（情報が入り過ぎたものや状態の悪いものなど）を整理し、利用者のニーズを考慮しつつ、資料の充実を図った。 ・教育委員会が実施している、不登校の児童・生徒を対象とした仮想空間（VLP）の中に、電子図書館のリンクを貼り、児童・生徒が図書館で利用登録をしなくても電子書籍を読むことができるようID・パスワードを発行した。 ・市立小・中学校においてタブレットで電子書籍を読んでもらうため、電子図書館のID・パスワードを全児童・生徒に一斉配布をする準備を行った。また、子ども向け読み放題コンテンツの拡充を図った。	・幅広い世代の多様な興味や関心、課題解決に役立つ資料の充実を図り、引き続き、利用者のニーズを考慮しながら、紙媒体と電子媒体のバランスを考え、蔵書を構築していく。 ・電子図書館の学校連携事業が開始されることに伴い、市立小・中学校における授業や朝読書、自宅での学習等においても積極的に利用してもらうため、電子書籍の子ども向けコンテンツを充実させる。また、その活用方法についてもPRを行っていく。	昨年の評価でも指摘したが、貸出し・閲覧サービスを支えるのは、豊富な情報と居心地の良い空間、そして利用者サービスを支える職員の存在である。府中市立図書館には、それが揃っており評価したい。 蔵書数の多さが府中市立図書館の魅力の一つである。様々な世代、興味・関心に応じられるよう、引き続き幅広い図書資料の所蔵に努めてもらいたい。それを支えるのは、資料費であり、一定額を確保している点も評価する。今後も現状の水準を維持してもらいたい。 一方で、充実した蔵書は読書に興味・関心のある人や、調べる目的の人にとっては魅力となるが、図書に関心のない人もまだいる。蔵書の充実と併せて、子ども・親子を対象としたイベント、学校での読書活動の充実に資する取り組みなど、子どもの頃から読書に親しむ機会を作ることが大切である。また、話題の映画・ドラマ等に関連した特集など魅力的な企画の実施、市が企画するイベントなどの展示コーナーの設置、それに対する広報を積極的に行うなど、市民が府中の図書館に行きたくなくなるような働きかけも必要である。 電子書籍の提供も順調で、ログイン数も増えている。今後もコンテンツの拡大に努めてもらいたい。なお、電子書籍の費用対効果については、常に意識する必要がある。電子図書館は、24時間利用可能で、利用者の利便性が大幅に向上する効果もある。一方で利用できる資料の数が限られていること、インターネット環境がないと利用できないこと、そして資料の保存ができないことなどの不利な点もあるので、使い方の講座などを開催し、分かりやすく周知するようにしてもらいたい。 市立小中学校の児童・生徒がタブレットで電子書籍を読むことができるようになったことに期待すると同時に、活発に利用されるように各学校で使い方のレクチャーを徹底してほしい。また、VLP※の中に電子図書館を置き、電子書籍を読めるようにしたことはとてもよかった。居ながらにして、読むことのできる電子書籍の活用は児童の読書の量と質を高める可能性もあり、時間をかけて丁寧に行ってもらいたい。 不登校児童への取り組みも高く評価する。不登校児童の問題は今後も多様化していくと考えられ、電子図書館を使って子どもが外出せずに図書の世界に接することができることは有意義である。 なお、電子書籍では味わえない本の魅力もある。その点を子ども達に伝えていくことも図書館の大切な仕事であることも抑えておいていただきたい。 他市との共同利用協定は利便性が高く、効果的で市民にも喜ばれているので、範囲を拡大することも検討してもらいたい。 ※VLP…インターネット上に構築された3次元の仮想空間で、パソコンやタブレットなどの端末を通して、タブレットを操作し、コミュニケーションをとることができる教育支援ツールのこと。利用者の日常的な利用を想定し、様々なコミュニケーション機能を実装している。	・所蔵資料数 図書1,589,213冊 雑誌1,341タイトル 視聴覚資料67,067点 マイクロフィルム4,000点 ・貸出数 図書・雑誌1,496,522冊 視聴覚資料104,740点 ・電子書籍 タイトル数13,838点 ログイン数87,985回 閲覧貸出数166,422点	A 魅力ある書架を構成するために不用品となった資料（情報が入り過ぎたものや状態の悪いものなど）を整理し、利用者のニーズを考慮しつつ、資料の充実を図った。 ・市立小・中学校においてタブレットで電子書籍を読んでもらえるよう、全児童・生徒・教員に電子図書館学校連携アカウントのID・パスワードの配布を行った。 ・学校連携事業の開始にあたり、電子図書館に子ども向けのコンテンツを増やしたほか、読み放題コンテンツの追加や、予約多数コンテンツのライセンス追加（複製購入）等を行った。	継続 ・幅広い世代の多様な興味や関心、課題解決に役立つ資料の充実を図り、引き続き、利用者のニーズを考慮しながら蔵書を構築していく。 ・電子書籍については、とくに電子媒体の特性を生かした選書を行い、コンテンツの内容を充実させることで、市民の非来館型サービスに対する要求に応える。				
	(2) 予約・リクエストサービス	A カウンターや電話での予約に加え、OPAC（オンライン蔵書目録検索システム）やインターネットからの資料の予約など、利用者のニーズに合った予約方法を選択できるよう環境整備に努めます。 イ 利用者が望む資料について、可能な限り迅速な資料提供を行います。 ウ 所蔵していない図書や雑誌へのリクエストは、購入及び他自治体の図書館などとのネットワークを活用した相互貸借を行うことで、利用者の資料要求に応えます。 エ 視聴覚資料及び電子書籍については、利用者からの要望を参考とし、魅力ある蔵書を構築していきます。	・リクエスト受付件数（図書、雑誌、視聴覚資料） ・都内公立図書館からの借用件数 ・国立国会図書館、都外公立図書館、大学図書館等からの借用件数	・リクエスト受付件数 総数566,128件 （内訳）図書508,731件 雑誌25,789件 視聴覚資料31,608件 ・都内公立図書館からの借用件数8,932件 ・国立国会図書館、都外公立図書館、大学図書館等からの借用件数110件	B 大学図書館、専門機関等への紹介状のオンライン申請を開始し、利用者の利便性向上に努めた。	・引き続き、利用者のニーズや地域性・社会的ニーズを把握し、魅力ある資料収集を行うとともに、市民からの資料要求に関する申請のオンライン化を推進する。 ・非来館型サービスの一環として、遠隔複写サービスの開始に向けて、引き続き調整を進める。	リクエストの受付件数は、だいぶ減少している。Webによるリクエスト件数も減少しており、気になると点である。貸出点数が減っているのにそれに連動した結果ではあるが、他の図書館からの借用件数が約700件増えており、市民の要望をより把握することが必要である。また、リクエストをスマートフォンから行う場合、画面表示が小さいことや遷移の際にログアウトしてしまうなど使いにくい点がある。使い方の改善や丁寧な説明に努めてもらいたい。 遠隔複写サービスは、著作権処理のその後を注視し、引き続き実現に向けて対応してもらいたい。	・リクエスト受付件数 総数555,761件 （内訳）図書504,663件 雑誌23,907件 視聴覚資料27,191件 ・都内公立図書館からの借用件数8,005件 ・国立国会図書館、都外公立図書館、大学図書館等からの借用件数113件	B 未所蔵資料のWebリクエスト受付フォームについて、運用開始から3年が経過し、サービスが利用者にとって一定程度浸透しつつある状況がうかがえるが、入力や申請をよりスムーズに行えるよう、令和8年4月のフォーム画面改修に向け、システム事業者と調整を取り組む。 ・市民の潜在的な要望や学習・調査ニーズの把握を一層強化し、資料提供の質的向上を図る。 ・遠隔複写サービスについては、著作権処理等の制度的動向を注視しながら、非来館型サービスの重要な手段として、引き続き実現に向けた検討と関係機関との調整を進める。	継続 ・利用者減少や貸出点数の低下といった傾向を踏まえ、利用者のニーズや地域性、社会的ニーズを的確に把握し、公共図書館としての役割を踏まえた魅力ある資料収集とサービスの充実を図る。 ・来館型サービスに加え、Webリクエストや電子の手続きを活用した非来館型サービスの推進に引き続き取り組む。 ・市民の潜在的な要望や学習・調査ニーズの把握を一層強化し、資料提供の質的向上を図る。 ・遠隔複写サービスについては、著作権処理等の制度的動向を注視しながら、非来館型サービスの重要な手段として、引き続き実現に向けた検討と関係機関との調整を進める。				
	(3) レファレンスサービス	A 図書館資料のほか、オンラインデータベースやインターネットを活用して的確なレファレンスを行うことによって、市民の暮らしの中での課題解決に応え、調査研究や学習を支援します。 イ 館内カウンターのほか、電話や電子メールなど、利用者のニーズに応じて幅広く窓口を設けることにより、レファレンスサービスを行います。 ウ 中央図書館は、地区図書館で受ける解決困難なレファレンスを支援します。	・相談受付件数 ・市民向けレファレンス講座の回数 ・職員向けレファレンス研修の回数	・相談受付件数4,100件、1日平均件数約12.8件 ・レファレンス講座1回実施 参加人数28人「府中のことばー東京のなかのことばの地域差とはー」 ・レファレンス研修4回実施	B 職員のスキルアップを図り、市民からの様々な相談に対応できた。 ・レファレンス講座は当日のキャンセルが多かったため、参加者数が昨年度程度であるが、申込受付後数日で定員に達した。	継続 ・図書館資料、データベースなどを活用して、市民からのさまざまな相談や質問に対応し、市民生活に有用な図書館の実現を図る。 ・レファレンス件数の減少の要因は、インターネットの普及などにより利用者自身で調べる機会が増加したと考えられるが、引き続き職員向けの研修の実施や都立図書館への研修に積極的に参加し、職員のレファレンス能力向上を目指す。	相談件数は減少している。インターネットや生成AIなどで簡易な調べものは済むようになり、相談件数の減少は府中市だけでなく全国的な傾向である。ただし、インターネット等を活用しても解決に至らない事例も多く、そのようなことに対応できるレファレンスサービスの役割についてより周知してもらいたい。また、レファレンスサービスは図書館が提供できる専門性の高いサービスである。相談件数の減少は、利用者自身の探求力がついてきたともいえるが、利用者自身ではどうしても偏った見方をしてしまう場合もあり、図書館職員が専門性を活かしてサポートする意義は大きい。また、「インターネットで検索しても出てこない情報があるので、図書館に来た」という利用者もいる。ハイブリッドな情報活用で“探す力”のある図書館職員を求めようになることに期待したい。 市民向けレファレンス講座は、一回行われた。「調べ方」や「情報検索」のコンやテクニックを学んでもらうという重要な役割を担っているが、それがストリートに伝わってこない場合もある。調べ方のスキルを身につけるための講座であることを分かり易く示す必要がある。たとえば、「調べたい（隊）」とか「こんな身につけ方あります」とか、平易なキャッチコピーを前面に押し出す方法もある。開催回ごとに特集するテクニクやスキルを変えるなどの工夫もほしい。また、テーマ設定は、一般教養講座ののりだけではなく、例えば、コミュニティの活性化を検討する際、自治会や町会で様々な情報を知る必要があるが、その情報を収集するための具体的な切り口となるテーマを設定するなど、府中市が示す生涯学習の方向性に沿うことも必要であろう。 子ども達が自分で調べものをする経験を積むことは大切であり、子どもによるレファレンスサービスの活用事例などを紹介し、子ども達に調べる楽しさを伝える取り組みも必要であろう。 なお、レファレンス事例については、国立国会図書館のレファレンス協同データベースへの登録が令和5年度、令和6年度と0件であった。パスファインダー（調べ方案内）として公開できる事例もあるのではないかと。	・相談受付件数3,458件、1日平均件数約10.8件 ・レファレンス講座1回実施 参加人数36人「先生！北極ってどんなところですか？北極を知る・日本を知る」 ・職員レファレンス研修5回実施	B 職員研修では、通常のレファレンス研修に加え、障害者福祉課や都立多摩総合保健福祉センターの職員を講師として、様々な事情を抱える利用者へも的確なレファレンスが提供できるようなスキルアップを図った。 ・レファレンス講座は、当日のキャンセルが多かった反省を踏まえて、リマインドメールを送付した。その結果、当日欠席者が5名ほど減少した。	継続 ・図書館資料、データベースなどを活用して、市民からのさまざまな相談や質問に対応し、市民生活に有用な図書館の実現を図る。 ・レファレンス件数の減少の要因は、インターネットの普及などにより利用者自身で調べる機会が増加したと考えられるが、引き続き職員向けの研修の実施や都立図書館への研修に積極的に参加し、職員のレファレンス能力向上を目指す。				
	(4) ビジネス支援サービス	A ビジネス関係資料コーナーを設置します。 イ 資格取得やキャリアアップのための資料及び情報を提供します。 ウ 市の産業振興部門などと連携し、産業活動や起業に関する資料及び情報を提供し、地域活性化を側面から支援します。	・ビジネス支援に関する講座の回数	・ビジネスに関する最新情報を利用者に提供するため、新刊図書やチラシ等を取得し、配架することができた。 ・年1回のビジネス講座を開催し、参加者からの評価は高かった。参加人数43人「未来につながるお米の話」 ・情報が古い・複本など、適切な除籍を引き続き行った。	B ビジネスに関する最新情報を利用者に提供するため、新刊図書やチラシ等を取得し、配架することができた。 ・「しごと情報コーナー」に関連する一般書架に、しごと情報コーナー周知の表示を作成するとともに、コーナーの配架を工夫し、利用の向上に努めた。 ・商工会議所や関係機関と連携を図り、チラシ等の配架を増加した。	継続 ・ビジネス関連の蔵書を充実するとともに、利用者が手に取りやすいコーナーの設置に努める。 ・「しごと情報コーナー」周知のために特集展示を実施する。 ・適切な除籍を引き続き行い、展示や一般書架の表示を見直し、しごと情報コーナーを周知する。 ・商工会議所などの関係機関と連携を図り、チラシや企業情報の充実を図る。 ・企業からの就職情報提供を幅広く求める。	近年、ビジネスへの関心も拡がりを見せている。幅広いビジネス支援が必要であり、特に図書館では地域の中小企業や個人事業主向けの情報発信・情報提供も必要である。 また、ビジネス支援の場合、資料の鮮度は大切で、適切な除籍を行ったことは評価したい。 ビジネス講座の評価が高かった。特に、高まりを見せるリスクリング※の動きなどを敏感に捉えながら他とは違う、図書館独自のビジネス講座が増えたら、「仕事に役立つ図書館」として利用の拡大につながると思う。ビジネス講座担当職員の負担が過重にならない範囲で、講座の実施回数を増やすことも検討してもらいたい。 しごと情報コーナーのガイド表示や商工会議所やビジネス支援を行っている団体などの関係機関との連携によってチラシ等の配布強化に努めている点は評価したい。なお、チラシ等の配布に留まらない連携事業があってもよいのではないかと。 また、コーナーがありながらも目立たない。企画展示が同時に行われるなど、目立つ工夫が必要であろう。 ※ リスクリング…企業が従業員に新たなスキルを身につけさせる取り組みや、個人がキャリアチェンジのためにスキルを学び直すこと。	・ビジネスに関する最新情報を利用者に提供するため、新刊図書やチラシ等を取得し、配架することができた。 ・ビジネス講演会1回実施 参加人数38人「畑から食卓まで。想いを届ける大豆の話」 ・ビジネス講演会実施時期の前後に、関連する資料の特集展示を実施した（令和7年度以前も同様に実施）	B ビジネスに関する最新情報を利用者に提供するため、新刊図書やチラシ等を取得し、配架することができた。 ・「しごと情報コーナー」周知のために特集展示を実施する。 ・適切な除籍を引き続き行い、展示や一般書架の表示を見直し、しごと情報コーナーを周知する。 ・商工会議所などの関係機関と連携を図り、チラシや企業情報の充実を図る。 ・企業からの就職情報提供を幅広く求める。	継続 ・ビジネス関連の蔵書を充実するとともに、利用者が手に取りやすいコーナーの設置に努める。 ・適切な除籍を引き続き行い、展示や一般書架の表示を見直し、しごと情報コーナーを周知する。 ・商工会議所などの関係機関と連携を図り、チラシや企業情報の充実を図る。 ・企業からの就職情報提供を幅広く求める。				

令和7年度の方向性に對し、実績はどうか、自己評価を入力する。
A 事業を拡充して実施できた
B 事業を継続して実施できた
C 予定の事業を充分に実施できなかった
D 予定の事業を実施できなかった

府中市立図書館サービス状況調査票

令和7年度実施事業の評価（評価実施時期：令和8年度上半期）

D 予定の実施事業を実施できなかった										令和7年度実施事業の評価				
基本方針		提供するサービス	事業内容	指標	(参考) 令和6年度実施事業の評価				委員の意見等					
				実績	評価	今後の方向性	委員の意見等			実績	評価	今後の方向性	委員の意見等	
1 市民の生涯学習を支える図書館		(5) ハンディキャップサービス	ア 図書館利用に障害のある市民にも利用しやすいよう、施設や機能を整備するとともに、きめ細やかな人的支援を行います。 イ 大活字本や点字図書、録音図書などの様々な資料を収集し提供すると同時に、全国的なネットワークを活用して利用者の幅広いニーズに応えていきます。 ウ 通常の活字による読書が困難な方へ、電子書籍などのアクセシブル な資料を提供するほか、対面朗読のサービスを行います。 エ 高齢や心身の障害など様々な理由で図書館に来ることが困難な方に、資料を郵送や宅配するサービスを行います。 オ 子どもたちが自分にあった方法で本の楽しさに出会えるように、布の絵本やさわる絵本、LLブック（写真や短い文章などを用い、読みやすく工夫されている本）などの様々な資料を収集し、「りんごの棚」として設置します。	・大活字本、点字図書、録音図書、布の絵本、点字雑誌の所蔵数 ・ボランティア活動（対面朗読、録音図書作成、布絵本作成） ・宅配貸出数（図書・雑誌・視聴覚資料） ・郵送貸出数（録音図書・点字図書） ・布の絵本、さわる絵本等の展示の回数	・蔵書数 大活字本3,698冊 点字図書717冊 録音図書938冊 布の絵本112冊 さわる絵本201冊 点字雑誌371冊 ・ボランティア活動 対面朗読252回 録音図書作成数13タイトル 布絵本作成数3タイトル ・宅配貸出数2,011点 ・郵送貸出数1,161点 ・特集展示1回	継続 ・大活字本、点字図書、録音図書、布の絵本、さわる絵本、点字雑誌など様々な資料の収集を継続して行う。 ・ボランティア活動（対面朗読、録音図書作成、布絵本作成）については、対面朗読や資料の作成を継続して実施する。令和6年度新たな音訳ボランティアを採用したので、技術向上のための講座を実施する。 ・郵送、宅配は、継続してサービスを実施するとともに利用者拡大のための広報活動を行う。宅配はサービスの幅広いものであるボランティアを継続して募集する。 ・地区図書館の巡回展示や子ども発達支援センター「はばたき」での展示を通して、利用者の拡大に努める。また、中央図書館にある大活字本の一部を地区図書館に置くことで利用者の増加を図る。	ボランティア団体との協働が維持されており、適切な対応がなされている。宅配・郵送サービスも適宜行われていて評価したい。引き続きボランティアの協力も得て、サービスの充実に努めてもらいたい。 ハンディキャップ関連の資料やサービスの存在を知らない市民も多いと思う。例えば、より多くの視覚障害者を知ってもらうために、市内の眼科クリニック等の医療機関と連携して広報してはどうか。 心身障害者福祉センター「きすな」で、布の絵本やさわる絵本の特集展示が行われたことを評価する。他の施設でも行えるとよい。また、子ども発達支援センター「はばたき」でも電子図書館利用の紹介が必要であろう。 また、国の「読書バリアフリー基本計画」は、2025年4月から第2期がスタートした。府中市としても、「読書バリアフリー計画」の策定を検討してもらいたい。 なお、「ハンディキャップサービス」という名称は、近年あまり使われなくなっている。今後の課題として名称変更も視野に入れてもらいたい。			・蔵書数 大活字本3,758冊 点字図書723冊 録音図書955冊 布の絵本113冊 さわる絵本206冊 点字雑誌378冊 ・ボランティア活動 対面朗読304回 録音図書作成数9タイトル 布絵本作成数1タイトル ・宅配貸出数2,214点 ・郵送貸出数1,171点 ・特集展示2回 ・児童室での「りんごの棚」特集展示を実施 ・市内眼科にサービス案内チラシを配布	B 昨年引き続き、ハンディキャップ関連資料の新しい資料の購入や買い替えを行い、蔵書数を増やすことができています。 ・はばたきや障害者週間にあわせて児童室での特集展示を実施し、ハンディキャップ資料の認知度や貸出数の向上につなげることができた。 ・令和7年度は録音図書の編集講座と養成講座を実施。新規ボランティアの育成に注力することができ、今後の録音図書作成向上につなげることができた。 ・継続的な広報活動もあり、徐々にではあるがサービス利用者数は増えている。	継続 ・大活字本、点字図書、録音図書、布の絵本、さわる絵本、点字雑誌など様々な資料の収集を継続して行う。 ・ボランティア活動（対面朗読、録音図書作成、布絵本作成）については、対面朗読や資料の作成を継続して実施する。令和7年度には、新たな音訳ボランティアも本格的に活動を開始した。今後も音訳技術の向上を図りながら、録音図書の作成を行っていく。 ・郵送、宅配は、継続してサービスを実施するとともに利用者拡大のための広報活動を行う。宅配はサービスの担い手であるボランティアを継続して募集する。 ・障害者週間に合わせた館内での特集展示、地区図書館の巡回展示や子ども発達支援センター「はばたき」での展示などを通し、利用者の拡大に努める。また、中央図書館にある大活字本や布の絵本などを地区図書館に置くことで利用者の増加を図る。		
		(6) 多文化サービス	ア 外国籍の方が自国についての情報や日本で暮らしていくための知識が母語で得られるよう、英語、中国語、ハングルなどの資料を収集し提供します。 イ 外国籍の方に対してわかりやすい館内サインの掲示や、利用案内を行います。 ウ 日本人が外国語を学ぶために役立つ資料や、広く外国の言語や文化に親しむための資料を収集し提供します。	・外国語資料のタイトル数	・外国語資料13,619タイトル ・特集展示1回	B 例年どおり、外国語資料の収集、提供を行い、外国の方の図書館利用促進をさらに拡充することができた。	継続 ・外国人だけでなく外国語を学ぶ日本人にも役立つ資料や、広く外国の言語や文化に親しむための資料収集をさらに拡充して行う。また、外国語資料の特集展示の回数を増やし、利用促進を図る。	外国語資料も若干ではあるが増えている。外国語の雑誌・新聞に関しても、各種取り揃えて提供されており評価する。特集展示は、多文化サービスのPRになる。1回行われたことは評価するが、より利用を喚起するための工夫を今後も続けてもらいたい。 在留外国人は、国の想定を越えて増えており、訪日外国人旅行者数も増加の一途を辿っている。日本のグローバル化はトレンドの一つである。図書館サービスについても、引き続き、多言語の対応の充実や、市民の国際理解を進める企画（多文化理解、語学等の講座など）に取り組んでもらいたい。また、外国籍の方でも分かりやすい「やさしい日本語」を活用した取り組みも進めてはどうか。			・所蔵数 外国語一般 9,949タイトル 外国語児童 3,757タイトル 外国語雑誌 13タイトル ・言語数 約20種 ・特集展示1回（「ガチの外国料理にチャレンジ！」令和7年5月～令和8年6月）	B 店頭見計らい選書先に、中国語・ハングル資料を多く取り扱う書店を追加し、外国語資料の選書機会の拡充を図った。外国籍の方や外国語学習者のニーズを意識した資料収集に努めた。	継続 ・選書基準に基づき、英・独・中・韓各語の資料を重点的に選書購入を行う。 ・資料の検索性を上げるため、書誌情報ルールの見直しを図る。 ・更なる充実・需要喚起のために、新刊図書のPRや、東京外国語大学をはじめとした各種機関との連携などを図る。	
		(7) 学習・文化活動の支援	ア 市内の大学や企業、団体と連携し、様々なテーマの講座の開催や資料の展示などを行います。 イ 市内に活動拠点を置く団体に資料の貸出しを行うことにより、団体が行う読書会や勉強会などの活動を支援します。 ウ 学習室、読書室を整備し、市民の学習環境を提供します。 エ 子どもから高齢者まで幅広い年齢に向けた読書活動を促進するとともに読書への関心が高まるような事業を展開します。	・図書館講演会の回数 ・ワークショップ、朗読会等の回数 ・企画テーマ展示の回数 ・団体貸出の団体数、貸出数 ・学習室等の利用人数	・図書館講演会4回（参加者：延べ213人） ・ワークショップ・朗読会6回実施（参加者：延べ161人） ・図書館ガイドツアー10回（参加者：延べ20人） ・図書館員体験ツアー6回（参加者：延べ50人） ・本探しのパートナー「OPAC検索案内」60回（参加者：延べ59人） ・企画テーマ展示110回 ・図書館探検隊4回（参加者：延べ34人） ・団体貸出 55団体 5,967冊貸出 ・学習室の利用人数 108,484人 ・グループ研究室の利用件数 172件 ・研究個室の利用人数 3,403人	B 市制70周年記念として、著名な児童作家を講師とする講演会をコンベンションホールで開催できた。 ・市を活動拠点とする読売ジャイアンツ女子チームと連携し、特集展示を行った。 ・市政70周年に併せ、府中をはじめとした、多摩地域、東京地域の特集展示を行った。 ・団体貸出について、継続して貸出を行い、読み聞かせや読書会などの支援を行った。	継続 ・幅広い年齢の方が読書や図書館に親しむ機会を増やしたい。学習室のオンライン予約も定着してきている。多くの利用者が使える学習室の設置を高く評価したい。研究個室の利用も増えており、図書館を“場”として活用することが定着してきている。貸出冊数等が減少している中、“場”としての図書館の役割が大きくなっていると感じる。 人生100年時代ということで、やりたいことへの探求が高まり、引き続き生涯学習の観点から、趣味や実益などの学びを奨励するために、年代に合わせて多様な催しを設定してもらいたい。たとえば、時事的な問題に即応するテーマ（高齢者・福祉・自然環境・水害・防災など）の情報を分かり易くする展示コーナーなどがあってよいのではないかと。 講座については市民の意識を刺激し、学習の場に容易に参加できる機会があることが望ましい。その機会の設定と目的を積極的に広報すべきである。	・図書館講演会4回（参加者：延べ153人） ・ワークショップ・朗読会等7回実施（参加者：延べ228人） ・図書館ガイドツアー10回（参加者：延べ32人） ・図書館員体験ツアー6回（参加者：延べ52人） ・本探しのパートナー「OPAC検索案内」59回（参加者：延べ106人） ・図書館探検隊4回（参加者：延べ41人） ・企画テーマ展示104回 ・団体貸出 55団体 7,510冊貸出 ・学習室の利用人数 107,801人 ・グループ研究室の利用件数 170件 ・研究個室の利用人数 3,221人	B ・デフリンピックが東京で開催されることに合わせて、府中市聴覚障害者協会から講師を招き、手話での催しをレクリエーションルームで実施した。 ・市の武蔵国府中大使である府中アスレティックFC女子チーム等と連携し、特集展示を行った。 ・例年のワークショップ、朗読会に加え、来館者参加型のイベント（キーワードラリー）を実施し、来館者の増加を図った。（ワークショップ140人、来館者参加型イベント57人、朗読会31人）	継続 ・幅広い年齢の方が読書や図書館に親しむ機会を増やしたい。学習室のオンライン予約も定着してきている。多くの利用者が使える学習室の設置を高く評価したい。研究個室の利用も増えており、図書館を“場”として活用することが定着してきている。貸出冊数等が減少している中、“場”としての図書館の役割が大きくなっていると感じる。 人生100年時代ということで、やりたいことへの探求が高まり、引き続き生涯学習の観点から、趣味や実益などの学びを奨励するために、年代に合わせて多様な催しを設定してもらいたい。たとえば、時事的な問題に即応するテーマ（高齢者・福祉・自然環境・水害・防災など）の情報を分かり易くする展示コーナーなどがあってよいのではないかと。 講座については市民の意識を刺激し、学習の場に容易に参加できる機会があることが望ましい。その機会の設定と目的を積極的に広報すべきである。				

令和7年度の方向性に對し、実績はどうか、自己評価を入力する。
A 事業を拡充して実施できた
B 事業を継続して実施できた
C 予定の事業を充分に実施できなかった
D 予定の事業を実施できなかった

府中市立図書館サービス状況調査票

令和7年度実施事業の評価（評価実施時期：令和8年度上半期）

令和7年度の方向性に對し、実績はどうだったか、自己評価を入力する。
A 事業を拡充して実施できた
B 事業を継続して実施できた
C 予定の事業を充分に実施できなかった
D 予定の事業を実施できなかった

基本方針	提供するサービス	事業内容	指標	（参考）令和6年度実施事業の評価				委員の意見等	令和7年度実施事業の評価			
				実績	評価	今後の方向性	委員の意見等		実績	評価	今後の方向性	委員の意見等
2 子 ど も の 生 き る 力 を 育 み、 青 少 年 に も 魅 力 あ る 図 書 館	(8) 児童サービス	ア 魅力ある絵本やよみものを豊富に揃えるとともに、本の配架やテーマに沿った展示を工夫し、子どもたちが本の楽しさに出会い、自ら考え、学ぶ力を育むことのできるサービスを提供します。 イ 読書相談や子どもたちから寄せられるレファレンスに対応します。 ウ 乳幼児期からの読書への働きかけが読書習慣を形成するうえで大切なことから、豊富な乳幼児向け資料を用意し、親子が気軽に立ち寄れる場を提供します。 エ おはなし会や読書キャンペーンなどの行事を定期的にを行い、子どもたちへ本の楽しさや、本との出会いの場を提供します。 オ 健全育成及び安全性などに配慮し、子どもたちが安心して利用できる環境を提供します。 カ 子育て中の親、または育児に関わる大人が利用しやすい読書環境を整備し、子どもと一緒に本を楽しむ場を提供します。	・児童書所蔵数 ・企画テーマ展示の回数 ・おはなし会の回数 ・ブックトークの回数 ・赤ちゃん絵本文庫の回数及び登録者数 ・児童向けイベントの回数 ・おすすめ図書リストの作成数 ・子ども読書活動推進委員会の開催回数 ・子ども読書活動推進委員会主催イベントの開催数	・児童書所蔵数 362,423冊 ・企画テーマ展示 17回 ・おはなし会 中央：85回 延べ974人 地区：288回 延べ1,869人 ・ブックトーク 3回 延べ15人（中央） ・赤ちゃん絵本文庫 36回 966人登録 ・児童向けイベントの回数 中央：5回 延べ1,350人 地区：52回 延べ3,965人 ・小さい子のおはなし会の際に、絵本の紹介等のプチ講座と、乳幼児と保護者が周りに気兼ねなく館内に滞在できる親子DE読書タイムを実施した。（中央） ・おすすめ図書リストの作成数 新規2種 継続6種 ・子ども読書活動推進委員会の開催回数 4回 ・子ども読書活動推進委員会主催イベントの開催数 12回 延べ116人	A ・対象年齢ごとに、各種イベントを実施することができた。 ・地区図書館では、各施設等のイベントと連携した事業を展開し、おはなし会等の参加者の増加に寄与することができた。	・「第5期府中市子ども読書活動推進計画」に基づき、引き続き読書環境を整備し、おはなし会や読書キャンペーンなど、子どもと本を結ぶための魅力ある取組を行う。 ・地区図書館では、施設のイベントと連携した事業を行う。	児童サービスについては、中央図書館、地区図書館ともに多彩な事業が行われている。おはなし会は当然ながら年齢にあった企画を行っており、参加者も増えている。「親子DE読書タイム」も子育て支援につながる取組みとして評価したい。昨年度同様子ども読書活動推進委員会の取組みも適切に行われている。今後もおはなし会を地区図書館と文化センターの協力・連携によって行う事により参加者を増やすことができと思う。 子どもと本を結ぶための魅力ある取組みに期待して、府中市立小中学校教育研究会図書館研究部などと連携して、子どもと本の結びつきを強めてもらいたい。	・児童書所蔵数 364,013冊 ・企画テーマ展示 20回 ・プレイパークとのコラボ展示 中央10回 地区1回 ・おはなし会 中央：85回 延べ1,227人 地区：288回 延べ1,982人 ・ブックトーク 2回 延べ20人（中央） ・赤ちゃん絵本文庫 35回 921人登録 貸出190冊・人 ※貸出は1人1冊で令和7年11月13日から再開 ・児童向けイベントの回数 中央：5回 延べ1,415人 地区：57回 延べ5,245人 ・小さい子のおはなし会の際に、絵本の紹介等のプチ講座と、乳幼児と保護者が周りに気兼ねなく館内に滞在できる親子DE読書タイムを実施した。（中央） ・おすすめ図書リストの作成数 新規2種 改訂2種 継続4種 ・子ども読書活動推進委員会の開催回数 4回 ・子ども読書活動推進委員会主催「絵本だいすき おはなしキャラバン」12回 延べ155人 保育所おはなし会 7園 31回	A ・対象年齢ごとに、各種イベントを実施することができた。赤ちゃん絵本文庫では、コロナウィルス感染症の蔓延や3・4か月児健康診査の会場変更に伴い停止していた絵本の貸出を再開し、会場の設営や看板、保護者への案内の方法を見直し、絵本の読み聞かせの意義や各図書館のおはなし会のPRに力を入れ、保護者の図書館利用の意識づけに寄与した。子ども読書活動推進委員会に関連して一部の市立保育所で実施していた保育所おはなし会を、アンケートで希望のあった新規6箇所の市立保育所でも実施し、より多くの子どもたちへおはなし会を提供できた。 ・地区図書館では、各施設等のイベントと連携した事業を展開し、おはなし会等の参加者の増加に寄与することができた。	・「第5期府中市子ども読書活動推進計画」に基づき、引き続き読書環境を整備し、おはなし会や読書キャンペーンなど、子どもと本を結ぶための魅力ある取組を行う。 ・地区図書館では、施設のイベントと連携した事業を行う。		
	(9) ヤングアダルトサービス	ア 中学生・高校生世代に、日常生活や成長過程に沿ったテーマの資料を揃え、読書への働きかけを行います。 イ 青少年世代同士の情報交換の場を設けます。	・企画テーマ展示の回数 ・青少年向けペントの回数	・企画テーマ展示 5回 ・市政施行70周年記念読解きイベント「消えゆく図書館と謎の未来日記」公演型 延べ65人、周遊型延べ927人※市立中学校の職場体験生にテストプレイを体験してもらい、難易度や改善点について意見をももらった。	B ・それぞれの取組を通じて、中学、高校生世代へ読書の働きかけを行うことができた。特に市制施行70周年記念の読解きイベントでは、普段図書館に来ない層への図書館のPRを行うことができ、来館へとつながった。	・中学、高校生世代に役立つ資料を揃え、読書への働きかけを継続して行う。 ・青少年向けのイベントを実施し、図書館利用へとつなげる。	市制70周年記念読解きイベントは、ヤングアダルト世代にとって興味深いイベントで参加者も多かった。図書館を再認識してもらう取組みになったと思う。とかく図書館離れが起きる世代であり、彼らの感性にあった取組みを図書館が提供することの意義は大きい。今後も中学・高等学校との協働事業を拡大し、彼らの感性に訴える取組みを行ってほしい。 また、ヤングアダルトコーナーには、小説だけでなく、実用的なニーズをキャッチした資料が必要なのではないか。若者たちの感性にあったノンフィクション資料も充実してほしい。同時に、ヤングアダルト世代が、書籍から学ぶこと、画面で学ぶこととの違いが分かるように、それぞれの特徴を分かりやすく説明し、情報の質や量の違いを実感できる場を設けてみてはどうか。 府中市の友好都市の大学などの情報も配架して、相互交流を行い、府中市に貢献することで市内や、国内に留まらない国際人の育成の土壌づくりを目指してほしい。 成人年齢が下がったことで、成人の意義を学ぶ場を広報し増やしてはどうか。若者の投票率が問題になっている今日、選挙が自分自身の日々の暮らしにどのように関わるのかを知るための展示や講座があってもいいのではないかと。 また、現代の政治や社会状況などについても青少年が学ぶ機会を感じさせる情報発信があってもいい。 サポーター広告を入れた読書通帳を導入して、本質的にアプローチすることも有効だと考える。 中学・高校生世代は、スマートフォンを持っている人が多いので、電子図書館を活用してスマートフォンから読書へ誘うような働きかけもほしい。 府中市立小中学校教育研究会図書館研究部の小学校での研修で、中学校の図書室を担当する司書の方に講師をお願いして、中学校図書室の本の種類、見せ方、本の薦め方などを学んだことがある。その経験を小学校の6年生児童に伝え、中学校への進学を楽しみにしてもらったことがある。入学、進学に向けて、他の学校の図書室に目を向け、連携することは効果的であり、図書館からもサポートしてほしい。 「ヤングアダルト」が図書館用語であることは尊重するが、利用者向けに提示する場合では一考が必要で、中学・高校生などに響くような表現が必要である（「ヤングアダルト」が外せないならば、併記しても良い）。ヤングアダルトより若い世代に伝わりやすい表現が必要である。 また、学校や図書館で行われる推薦図書は往々にして読書の押しつけ的印象になりがちで、若い頃の読書体験談や思い出を学校の先生から募ったり、著名人のエッセイから引用したりして、若い頃の読書がどれだけの栄養源となるのかを伝える試みがほしい。	・企画テーマ展示 5回（3～6月「考えよう、SDGs」、6～9月「宇宙」、9～12月「映像化された本」、12～3月「旅する本棚」、3～6月「めくって、美味し」） ・YAルーム夏休みキャンペーン「推し活は図書館で～図書館で出会うみんなの推し」52人 ※中学生・高校生世代に自身の「推し」「推しペーパー」に自由に表現して提出してもらい、YAルームでの展示と図書館による関連本の紹介を行った。	B ・それぞれの取組を通じて、中学、高校生世代へ読書活動推進の働きかけを行うことができた。「推し活は図書館で～図書館で出会うみんなの推し」という新しい読書キャンペーンを実施し、YAルームに張り出された参加者の力の入った作品やそれに関連する本について紹介することができた。	・中学、高校生世代に役立つ資料を揃え、読書への働きかけを継続して行う。 ・青少年向けのイベントを実施し、図書館利用へとつなげる。		
	(10) 学校支援サービス	ア 学校図書館にある資料で解決できない調べ学習の課題などに、資料提供やレファレンスにより支援します。 イ 学級貸出を行い、資料の支援を行います。 ウ 学校からの要請で、まちなけんや社会科見学、中学生などの職場体験などの受入れを行います。	・学級貸出の貸出総数、1クラス平均冊数（小・中学校） ・まちなけん、社会科見学などの受入数 ・職場体験受入数	・学級貸出 貸出総数 11,225冊 1クラス平均冊数 小学校：26.3冊 中学校：0.6冊 ・まちなけん、社会科見学などの受入数 中央：4回 地区：17回 ・職場体験受入数（中央）6校22人 ・職場体験受入数（地区）8校20人 ・小学校出張おはなし会 8回1校（中央） ・小学校出張ブックトーク 2回1校（中央） ・「ふちゅう電子図書館」の学校連携用アカウントのテスト校での試験実施 小学校2校 中学校1校	B ・学級貸出及びまちなけん、社会科見学などの依頼については、例年どおり対応できた。 ・市立中学校の職場体験については、中央・地区図書館それぞれで受入れを行った。 ・学級貸出の案内の見直しや、小学校への出張おはなし会とブックトークを再開する等、学校へのアウトリーチ活動や支援に力を入れた。 ・「ふちゅう電子図書館」の学校連携用アカウントのテスト校での試験実施を行い、そこでの課題を反映し、全校実施のための準備を進めることができた。	・学級貸出セットの見直しを行い、学校図書館の支援に努める。 ・引き続き、まちなけんや社会科見学、職場体験等の受入れや、出張おはなし会やブックトーク等のアウトリーチ活動を行い、子どもたちの図書館に対する理解を深め、利用の促進に努める。 ・ふちゅう電子図書館と学校との連携を推進する	“まちなけん”や社会科見学、また、各図書館での職場体験の受入れも行われている。新たな取組みとして“小学校出張おはなし会”や“小学校出張ブックトーク”が行われたことを評価する。 また、「ふちゅう電子図書館」の学校連携を模索する取組みとして、テスト校での試験実施も行われ、その成果を期待したい。特に、印刷資料と電子書籍のハイブリッドな学校支援に期待している。 学校貸し出しの期間が6週間と長く、時間をかけて調べ学習や読書に取り組むことができる。 小学校では図書委員会の活動を通して読書活動を推進していて、電子書籍の冊数が増えて、児童や教員から喜びの声があがっている。印刷資料も電子書籍も含めて、傍らに読みかけの本を置くという指導に役立っているという声もある。 「全国学力・学習状況調査」の結果から家にある本の冊数が多い児童・生徒ほど、各教科の正答率が高いという結果が出ている。家庭における蔵書数、新聞を読む機会が減っている中で、学校図書館や公共図書館の果たす役割は大きい。引き続き、図書館が学校図書館との連携・支援を行い、学校司書対象に魅力的な学校図書館を作るための研修会の実施や、電子図書館の充実、まちなけんや職場体験への協力など、学校図書館の支援に取り組んでもらいたい。	・学級貸出 貸出総数 9,172冊 1クラス平均冊数 小学校：21冊 中学校：1.1冊 ・まちなけん、社会科見学などの受入数 中央：3回 地区：14回 ・職場体験受入数（中央）7校27人 ・職場体験受入数（地区）8校41人 ・小学校出張おはなし会 8回1校（中央） ・小学校出張ブックトーク 2回1校（中央） ・小学校出張おはなし会 3回1校（地区） ・令和7年4月「ふちゅう電子図書館」学校連携用アカウントの全市立小・中学校の児童・生徒・教員への配布を開始した。学校図書館担当者連絡協議会や府中市立小中学校教育研究会図書館研究部での使い方のレクチャーや、中学3年生への卒業後の利用へつなげるためのPRチラシの配布を実施した。	A ・市立中学校の職場体験については、中央・地区図書館それぞれで受入れを行い。社会科見学などの依頼については、例年どおり対応できた。 ・学級貸出冊数が減った理由としては、「ふちゅう電子図書館」の学校連携用アカウントの配布が始まり、一部の利用が移ったことが考えられる。学級貸出セットの、古い出版年の図書資料を入替え、わくわく自然学校関連資料の収集・入替え等、一部見直しを行うことで利用促進を図った。 ・出張おはなし会等の学校へのアウトリーチ活動や支援に力を入れた。 ・「ふちゅう電子図書館」学校連携用アカウントの全校配布により、児童・生徒・教員に朝読書や授業、休み時間の読書等に活用いただいた。配布に伴い、使い方のレクチャー等のPRにも力を入れた。	・学級貸出セットの見直しを行い、学校図書館の支援に努める。 ・引き続き、まちなけんや社会科見学、職場体験等の受入れや、出張おはなし会やブックトーク等のアウトリーチ活動を行い、子どもたちの図書館に対する理解を深め、利用の促進に努める。 ・ふちゅう電子図書館と学校との連携を推進する。		

府中市立図書館サービス状況調査票

令和7年度実施事業の評価（評価実施時期：令和8年度上半期）

基本方針	提供するサービス	事業内容	指標	（参考）令和6年度実施事業の評価				委員の意見等	令和7年度実施事業の評価			
				実績	評価	今後の方向性	委員の意見等		実績	評価	今後の方向性	委員の意見等
3 情報化社会における市民の情報拠点となる図書館	(11) 視聴覚サービス	ア 視聴覚資料は、その他の資料との関係を考慮しながら、音声・映像資料（CD、DVDなど）を収集します。 イ 映像資料の映写会の実施や視聴用機器を設置し、館内での視聴を可能にするなど、視聴覚資料ならではの様々なサービスを展開します。	・視聴覚資料の所蔵数 ・視聴席利用回数 ・企画テーマ展示の回数 ・映写会の実施回数	・視聴覚資料の所蔵数67,152点 ・視聴席利用回数6,996回 ・企画テーマ展示17回 ・映写会実施回数1回（バリアフリー上映会「じんじん」：参加者26人）	B ・劣化の著しい資料を中心に、引き続き蔵書構成の見直しを進めた。 ・より多くの視聴覚資料を借りてもらうきっかけ作りとして、資料の特集ページをHPに追加導入を検討し作業を進めた。	・引き続き、音楽・映像業界の多様化等、時代の変化を踏まえつつ、図書館ならではの資料収集やサービスの展開を検討していく。 ・劣化の著しい資料や利用の少ない資料を中心に所蔵資料の見直しを進め、利用者にとってより魅力的な蔵書構成を目指す。	視聴覚資料の所蔵数が着実に増加していることは評価できる。しかし、昨年度に比べると視聴覚資料の貸出点数も視聴回数も減少している。長年、視聴覚資料の充実に努め、その所蔵数も他の図書館に比べれば多いが、作品内容や媒体が古くなっているのではないかな。劣化した資料の入れ替えなども行い、新鮮味のある蔵書構成となるようにしてほしい。 また、スマートフォンやタブレット、パソコンでの動画視聴の普及により代替えされてしまっている可能性はある。視聴者のニーズは決められたものを見る、あるものを視聴する（テレビ等）ニーズから、興味のあるものを自由に視聴する（動画配信等）に移り変わっており、両者を選択的に視聴しているのではないかな。維持コストを考えるとサービスの方法の検討も必要であろう。	・視聴覚資料の所蔵数67,076点 ・視聴席利用回数5,852回 ・企画テーマ展示17回 ・映写会実施回数1回（バリアフリー上映会「武士の家計簿」：参加者40人）	B ・劣化の著しい資料を中心に、引き続き蔵書構成の見直しを進めた。 ・より多くの視聴覚資料を借りてもらうきっかけ作りとして、資料の特集ページをHPに追加した。	・引き続き、音楽・映像業界の多様化等、時代の変化を踏まえつつ、図書館ならではの資料収集やサービスの展開を検討していく。 ・劣化の著しい資料や利用の少ない資料を中心に所蔵資料の見直しを進め、利用者にとってより魅力的な蔵書構成を目指す。 ・視聴覚の貸出数・認知向上に繋がる取組を検討する。		
	(12) 情報発信サービス	ア ホームページや配信メールの活用により、資料及び図書館に関する情報を迅速に利用者に提供します。 イ 紙媒体・電子媒体の資料の整理と活用を図るため、情報検索の手段となるデータベース化を行います。 ウ レファレンスの質問や新聞記事見出しなどのデータベース化を継続し、情報提供の支援を行います。 エ 市民が利用するインターネット端末を整備し、情報収集の機会を提供します。 オ 様々な理由で図書館に来館しない市民が利用するインターネット端末を整備し、情報収集の機会を提供します。	・ホームページのアクセス数 ・データベース利用者数 ・インターネット席利用者数 ・電子書籍サービス（タイトル数、ログイン数、閲覧貸出数）（再掲）	・ホームページのアクセス数1,644,607件 ・データベース利用者数521人（うち国立国会図書館デジタル化資料送信サービス閲覧利用者50人、国立国会図書館歴史的音源利用者7人） ・インターネット席利用者数7,662人 ・電子書籍（タイトル数13,176点、ログイン数28,508回、閲覧貸出数38,708点）（再掲）	B ・ホームページに地区図書館や特集展示のイベントの情報などを掲載して周知した。 ・市民のニーズに応じたデータベースを提供できた。 ・令和7年3月で電子図書館のサービス開始から2年が経過し、ログイン数、閲覧貸出ともに増加している。	・既存データベースの周知を積極的に進めていく。 ・電子図書館のさらなる周知とコンテンツの充実にも取り組む。 ・令和7年3月で電子図書館のサービス開始から2年が経過し、ログイン数、閲覧貸出ともに増加している。	ホームページでの情報発信は適宜行われているが、アクセス件数は減っている。また、中央図書館でのオンラインデータベースの利用数も減っている。有効なリサーチ手法がうまく認知されていないのかもしれない。減少している現状の分析と利用を促す取り組みが必要であり、レファレンス講座と連携する形で活用推進プログラムなども必要かと思われる。その意味では「市民のニーズに応じたデータベースを提供できた」と言う所管課評価には意義を感じる。 電子書籍の利用は増加傾向にあり、その点は評価したい。コンテンツも増えているが、コンテンツの更なる充実に努め、電子図書館のさらなる周知のために、様々な機会を利用して利用体験会などを実施してはどうだろうか。 ホームページや『図書館だより』等による広報活動については、引き続き積極的に取り組んでほしい。ただし、内容が活字中心のデザインのように感じる。写真等の活用によりイベント等の様子が分かるようにするなど、視覚的に市民に読んでもらえる内容にしていきたい。市民や府中市に関係する著名人等、様々な世代、ジャンルのおすすめ本を紹介する内容を掲載するなど、本の魅力を発信するのにもよいと思う。 また、非来館型のサービス提供は時代の趨勢であるが、来館して学ぶこととの差を理解する施策も必要である。来館者が共通の課題で学ぶ場として、同好の士が交わる場を設ける、人と人との交流が拡大し相互に研鑽する場としての機能も検討して良いのではないかな。 地区図書館のイベントは、日頃から図書館を利用する本の好きな子ども達には分かるが、イベントの情報を	・ホームページのアクセス数1,625,181件 ・データベース利用者数791人（うち国立国会図書館デジタル化資料送信サービス閲覧利用者63人、国立国会図書館歴史的音源利用者3人） ・インターネット席利用者数8,965人 ・電子書籍（タイトル数13,838点、ログイン数87,985回、閲覧貸出数166,422点）（再掲）	A ・令和7年4月より、電子図書館の学校連携事業を開始し、市内小・中学校の児童・生徒による利用が増えたため、ログイン数、閲覧貸出数ともに大きく増加した。 ・ニーズに応じたデータベースを提供することで、利用者数が増加した。	・電子図書館については、ホームページの見せ方を工夫したり、効果的なPRを行うことで、さらなる利用促進を図る。 ・既存データベースの周知をさらに進め、利用促進につなげる。		
4 市民の誇りとなる図書館	(13) 地域情報の提供サービス	ア 郷土資料や行政資料など地域資料の整備と活用を図り、市民及び市政への情報提供を行います。 イ 地域資料のデジタル化を実施し、紙資料の保存と資料閲覧における利便性の向上を図ります。さらに、閲覧を希望する方がいつでもも活用できるように、デジタル化した資料を著作権に留意しながら、インターネットで提供します。	・地域資料の所蔵資料数 ・地域資料の修繕数 ・「こども府中はかせ」の発行回数 ・地域資料デジタル化点数（令和4年度開始）	・地域資料の所蔵資料数 93,583点 ・地域資料の修繕数 28点 ・こども府中はかせ1～10号改稿・製本 ・地域資料デジタル化点数107件	B ・平成23年から令和2年に発行したこども府中はかせを改稿し、製本した。 ・8か年計画の13年目として地域資料のデジタル化を実行した。	・引き続き、府中市に関連する資料を収集・保管する。 ・幅広い世代の利用者が、地域資料に触れやすい環境を整える。 ・地域資料のデジタル化を進める。 ・『新府中市史』刊行を利用者に周知するため、展示等を検討する。	地域資料の収集とデジタル化において着実な成果を挙げている。歴史ある府中市において、図書館が地域資料の収集を積極的に行い、その組織化と提供、保存に努めている点は評価したい。特に8ヵ年計画で進めている地域資料のデジタル化事業は高く評価するとともに、国立国会図書館と連携した取り組みとして他の図書館のモデルになる事業である。 また、地域資料のデジタル化は、学校や家庭など、様々な場所・機会に閲覧できるようになり大変便利である。 他方で、このような地域資料の開示や利用についての啓発的活動も望みたい。例えば、わがまち（自治会・町会）の歴史や由来についてのモデル展示とかも有効だろう。 『新府中市史』が刊行され、さらなるデジタル化も含め、地域資料をより利用しやすくしてほしい。 また、子ども向けの「こども府中はかせ」の改稿・製本が行われた。学校との連携でも使える資料であり、今後も継続した取り組みをお願いしたい。 観光プロモーション課や府中観光協会の「SDGs探究学習プログラム」との連携なども視野に入れ、図書館を情報拠点として、府中市の魅力を市内外にアピールしてほしい。	・地域資料の所蔵資料数 94,645点 ・地域資料の修繕数 26点 ・こども府中はかせ15号「府中の坂」 ・地域資料デジタル化点数93件	B ・市内にある坂をテーマにした地域資料を児童へ向けて平易な表現にして冊子を作成した。 ・8か年計画の4年目として地域資料のデジタル化を実施した。 ・『新府中市史』を配架している「地域資料コーナー」の周知を図るため、3階特集欄で展示を行った。	・府中市に関連する資料を引き続き、収集・保管する。 ・幅広い世代の利用者が、地域資料に触れやすい環境を整える。 ・地域資料のデジタル化を進める。 ・『新府中市史』を周知するため、展示等を検討する。		
	(14) ボランティア活動の推進	ア おはなし会や対面朗読などの講習会を実施し、図書館や学校などで活躍するボランティアを養成します。 イ 図書館におけるボランティア活動を推進し、市民との協働を積極的に行います。	・ボランティアの登録者数 ・読み聞かせ講習会の回数 ・おはなしボランティアステップアップ講座の回数 ・音訳ボランティア養成講座の回数	・ボランティアの登録者数 おはなしボランティア 61人 音訳ボランティア 30人 宅配ボランティア 15人 布絵本作成ボランティア 4人 ・読み聞かせ講習会 6回 延べ148人 ・おはなしボランティアステップアップ講座 8回 延べ359人 ・音訳ボランティア養成講座 10回 延べ112人	B ・市民対象の読み聞かせ講習会の応募方法について、昨年度に引続き、往復はがきに加え、申込み専用フォームからも受付を可能とした。ステップアップ講座では、時代やボランティアのニーズに合わせて講師をお招きし、技術向上を図ることができた。 ・令和6年度には新規で音訳ボランティアの採用を行うとともに初級のボランティア養成講座を行い、技術の向上を図った。 ・宅配ボランティアについて、継続して募集しているが、利用者の住所とボランティアの方の希望する活動範囲にずれがあったため、活動を行えないボランティアの方が多かった。	・引き続き図書館や学校などで活躍するボランティアを養成し、図書館事業における協働を継続していく。 ・新規採用した音訳ボランティアについて、継続して音訳の講座を実施し、技術向上を図る。 ・多くのボランティアの皆さんに協力をしていただき、様々なサービスを展開している。その点は高く評価したい。また、新規ボランティアの募集やスキルの向上に向けた取り組みも適宜行われている。宅配ボランティアの活動範囲のずれの問題が起きているようであるが、せつかつのボランティア活動であり、ミスマッチのないような方策を考え、多くのボランティアの方に関わってもらいたい。 ボランティアによる本の読み聞かせは、子どもにとって語学力や想像力を育て、情緒の安定や集中力が身に付くなど、子どもの発達に効果的な取り組みである。市民向けに読み聞かせの取り組み等について積極的に発信し、市民の方の理解を図るとともに、新たなボランティアの人材確保や、専門性の向上に引き続き取り組んでもらいたい。 また、若い世代がボランティアに参加しやすくなるように、講座の開講日や時間帯、方法（オンラインの併用等）の検討を進めていただきたい。そもそも、講座の開催情報自体が市民に十分に周知されているとは言い難いように思うので、周知方法も工夫してほしい。 宅配ボランティアは、図書館の利用ばかりではなく地域の見回り効果なども期待できる。地域の交流拡大の効果ももたらすと思われるので大いに推進してほしい。宅配ボランティアの活動が知られれば、市民が図書館に目をつける動機づけになる。利用者が増加することを期待する。 消費税などの税金や毎年社会保険料も上がり続ける中で、実質賃金は下がり続けて、物価は30年前の2倍、貧困率はG7中で最低ランクという状況である。そのような厳しい社会情勢の中で、現役世代のボランティア活動は、なかなか厳しい状況になってきている。ボランティア活動を尊重しながらも、発想を転換して、福祉関連団体等との連携・協力を促すことによって、情報の質を高め、参加者のメリットにも繋がり、図書館サービス利用者である消費者の知的好奇心に訴求したものが作れるのではないかな。その点の検討も必要であろう。 毎年、読み聞かせ講習会を行っているが、非常に狭き門で何年も抽選に漏れている方もいる。受講人数を増やしてほしい。 また、ボランティアの登録について、募集人数や選考方法が分かりにくいので、選考基準などを明確にしてほしい。その際、他市や他団体で読み聞かせのボランティアをやっている経験も選考時に考慮してほしい。	・ボランティアの登録者数 おはなしボランティア 63人 音訳ボランティア 33人 宅配ボランティア 14人 布絵本作成ボランティア 4人 ・読み聞かせ講習会 6回 延べ116人 ・おはなしボランティアステップアップ講座 8回 延べ369人 ・音訳ボランティア養成講座5回 延べ42人 ・ディジー図書作成編集講座3回 延べ27人	B ・読み聞かせ講習会の応募方法について、昨年度に引続き、はがきと申込み専用フォームからの受付を行っている。ステップアップ講座では、時代やボランティアのニーズや実践に合わせた内容で、技術向上を図ることができた。保育所おはなし会の拡大等、読み聞かせボランティアの活動の場を広げ、読み聞かせボランティアの活動ルールについても見直しを行うことができた。 ・令和6年度新規で採用した音訳ボランティアについて、音訳講座を実施して技術向上を図るとともに、録音図書の作成に取り組むことができた。 ・宅配ボランティアについて、継続して募集しているが、利用者の住所とボランティアの希望する活動範囲が合わない場合があり、活動を行えないボランティアも多かった。	・読み聞かせボランティアについて、引き続き図書館や学校などで活躍するボランティアを養成し、図書館事業における協働を継続して進める。 ・音訳ボランティアについて、継続して音訳の講座を実施し、技術向上を図りながら録音図書の作成に努める。 ・宅配サービスの新規利用者が増加を図りながら、登録しているボランティアとのミスマッチ解消につなげる。			

その他ご意見

令和7年度実施事業の総合所見